江南市地域福祉計画策定委員会　議事要旨

会 議 名		平成 28 年度　第２回　江南市地域福祉計画策定委員会
日　時		平成 29 年３月 15 日（水）　　午前 10 時 30 分～午後 12 時
場　所		防災センター　２階　防災セミナー室（北）
出席者	委員	今井　敦六、岩根　佐代子、奥村　勝次、柏原　正尚、倉知　榮治 椙村　徹師、坪内　三、永田　幸子、丹羽　義嗣、陸浦　歳之
	市職員	丹羽　鉱貢、貝瀬　隆志、大池　慎治
	社協職員	脇田　和美、福田　和広、伊藤　光洋、宮本　清隆
欠 席 者		名倉　尚之、三ツ口　文寛
議　題		１．江南市地域福祉の区域の考え方について ２．市民意向調査結果について ３．地域福祉懇談会開催結果について ４．その他
資　料		資料１　　江南市地域福祉の区域の考え方について 資料２　　江南市地域福祉計画に関するアンケート調査 　　【調査結果報告書　抜粋版】 参考資料　第２回江南市地域福祉計画策定部会　記録 　　第２回江南市地域福祉活動計画策定部会　記録

◆ 会 議 結 果 ◆

１．江南市地域福祉の区域の考え方について

・資料１に基づき、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より説明がありました。

・岩根委員より、中学校区ごとに行われた地域福祉懇談会では地域差を感じたため、将来的にもう少し細かい地域で考えていくことができないかというご意見をいただきました。

・丹羽委員より、資料を読んだが、中学校区で括ることに非常に違和感があり、棲み分けなどの地域設定がなぜ必要なのかが理解できない、十分に機能している町内地域があるため、それを生かすやり方の方がいいのではないかとのご意見をいただきました。それを受けて、会長より、中学校区より小学校区や町内会レベルの方が動きやすいというご意見かとの質問がありました。丹羽委員より、それぞれの歴史と利害関係があり、区だけでもうまくいかないのに、性格の違う地域が

一緒に行うことは難しいと思うとのご意見をいただきました。西部中学校の地域福祉懇談会に参加したが、ここは伝統的に古知野西小学校の地域であり長い歴史があるため、赤童子西区が参入して中学校区が制定されたときも異論があり、住民は違和感を持っているとの指摘がありました。地域包括支援センターについても同じであり、赤童子東区は中部包括、南は南部包括だが、赤童子東区と赤童子西区は長い歴史でつながっているため、分断されたことについて住民はいい気分ではない、島宮や東野町は１区１町でやっているとの報告がありました。

・椙村委員より、町内会あるいは小学校区程度の方が、規模的にまとまりがいいのではないか、より広い区域の中学校区にする理由が分からないとのご意見をいただきました。

・副会長より、色々な区域の分け方があり、一長一短であるとのご意見をいただきました。自身の住んでいる地域には、藤里小学校、草井小学校、門弟山小学校の３つの小学校があるが、中学校は宮田中学校、北部中学校の２校であり、30 年程前から地域が分断され、最初のころは地域活動が非常にやりにくかったとのご意見をいただきました。

・参考資料に基づき、各策定部会で出された意見の報告が事務局（福祉課長、社会福祉協議会事務局長）よりありました。

・会長より、各部会や会議で出された意見を全て反映することは難しいが、多数決で決めることはしたくないため、会長に一任したり、会長と副会長で協議することがあるかもしれないとのご意見をいただきました。

・会長より、参考資料の説明を聞き、地域課題の把握や整理の視点で考えるときは、中学校区を区域とするが、今後、中学校区で一律的に活動するわけではないことを理解したとのご意見をいただきました。計画がスタートするときに、区域分けがなかったり、区域が小さ過ぎると、課題が見えにくくなるとの指摘がありました。

・会長より、離れた地域同士でも、それぞれに同じような課題があれば、一緒に取り組んでいけばいいとのご意見をいただきました。また、小さい地域に分けるべき中学校区と、複数の中学校区をまとめた方がやりやすい地域があるとの指摘がありました。どう区域を設定していくかは今後の課題になるが、このような考え方で区域分けをしてもいいかとの確認がありました。

・丹羽委員より、いくつかの拠点を設けて課題を整理し、それを市全体に反映させるのかとの質問がありました。

・会長より、一つの中学校区に複数の拠点が必要との考えもあるかもしれないが、隣の区域に大きな拠点があれば、そこに集まる方がいい場合もあるとの指摘がありました。また、大きな建物をどんどん建てることは住民の本意ではなく、市の財政などを考えても現実的ではないため、拠点については今日の時点ではしっか

りと決まらないのではないかとのご意見をいただきました。既存の拠点としてなりうるもの、地域の生活になじむ拠点が何なのかについては、今後議論が必要であるとのご意見をいただきました。

・会長より、説明を聞き、課題を把握し整理する枠組みとして設定したのが中学校区であると理解したとのご意見をいただきました。

・事務局より、市全体で地域福祉の発展のため取り組んでいかねばならない課題をまとめ、重点的に取り組む課題として位置付けた上で、各地域の特色を生かした地域ごとの計画もまとめていきたいと思っているとの説明がありました。

・事務局より、区域については、小学校区や、より小さい区域の方がやりやすいなど、色々なご意見をいただいているとの報告がありました。６年間の計画だが、その間に各区域にハードウェアとソフトウェアを整理し、ある程度、充実した成果を出したい、ただ、あまり細分化すると、制約や格差が生じてしまう可能性があるとの説明がありました。まずは、中学校区の区域設定で計画をスタートさせ、６年間の間に地域福祉活動が進み、次の計画を策定する際には区域の設定を考え直したいとの説明がありました。

・会長より、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体となってつくると、良い部分もあるが、課題が残る部分もあるとのご指摘を受けました。行政側の課題としては、細分化して予算をかけ過ぎてしまうことだが、だからと言って、拠点を一つつくればいいわけではなく、行政は色々な立場で色々なことを言われてしまうというご意見をいただきました。住民側の活動を考えると、地域によって隣近所とだけの方がやりやすい地域もあれば、気心の知れる人が少ないので、もう少し広い方がいいという地域もあるかもしれないとのご意見をいただきました。地域単位で活動するときは、広い単位からだんだん小さくしていくべきであるとのご意見をいただきました。全国的に孤立死を防止しようという動きがあり、市全体でも取り組まねばならないが、それによって各地区ごとに委員をつくることになれば会議だけが増えることになりかねないとの指摘を受けました。江南市の実情を反映した大きなテーマ、また各地域ごとに細分化されたテーマを整理し、テーマが複数ある地域や共通のテーマがある地域の棲み分けを行い、地域ごとにどのような課題があり、どのような取り組みをすべきかを６年間で考えていければいいと思うとのご意見をいただきました。

・事務局より、小さな区域では高齢者のサロン活動が始まっているが、それを中学校区全体に広げていくわけではなく、小さい地域活動を増やしながら一つひとつの活動をネットワークとして繋げていくことが、行政が計画の進捗管理を行っていく上での役割であり、使命だと思っているとの説明がありました。そのネットワークを、中学校区の一つの福祉活動のイメージとして捉えていただきたいとの説明がありました。

・副会長より、計画のイメージが湧かなかったが、会長と事務局の説明を聞き、地域の問題点を把握するため、区域を設定するということがよく理解できたとのご意見をいただきました。
・会長より、地域福祉活動計画は社会福祉協議会が住民主体で策定しているが、ずれが生じてきているとのご指摘がありました。計画にはなくても、需要があって行っている活動もあるため、すべてを反映することは難しいが、現実的な部分で動きやすいものをまとめていくことが策定委員会の課題であるとのご意見をいただきました。
・会長より、今後、中学校区ごとに色々な資料が出てくると思うが、より細かい地域や、あるいは市全体の資料の方が分かりやすいという場合は、対応しながら進めていきたいと思うので、ご意見をいただきたいとのお願いがありました。

2. 市民意向調査結果について

・資料２に基づき、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より説明がありました。
・会長から、回収結果に配布数が 2,000 とあるが、その内訳は年齢別に出されたのかという質問がありました。それを受けて、事務局より、地域と年齢については市全体の割合に合わせて抽出しているとの回答がありました。
・会長より、地域ごとに回収の状況が違うかもしれないが、年齢が上がるにつれて回収率が増えおり、30 代以上の回答という感覚に近いのではないかとの指摘がありました。２ページに「地域」の範囲についての質問があるが、20 代以下で「江南市全域」と回答した方は 34.5%となっており、年齢によって意識の差があるとの指摘がありました。
・会長より、回収できていないところもあり、違う意見を持った人たちがいても、調査結果に反映されにくい現実があるとのご指摘がありました。調査結果に反映されている意見は、今までずっと地域に住み、地域のことを分かっている方からの積極的な意見だと思った方がいいかもしれないとのご指摘がありました。
・会長より、４ページに地域活動やボランティアへの参加についての質問があるが、「仕事が忙しい」という理由が一番多いとの指摘がありました。今後、地域の課題を解決しようとすれば、今動いている人がさらに動かなくてはいけなくなり、そうでない方は仕事が忙しいと地域活動を回避していく状況に陥ってしまう可能性があるとのご指摘がありました。今あるものを見直し、実情に合わせた活動をすること、新しい方が参加しやすい仕組みについても、計画をまとめ上げるときにチェックをしなければならないとのご意見をいただきました。いい計画ができても、動いていなければ意味がなく、色々な世代の方が参加しやすく、課題を共有しやすいようにすることが重要であるとのご意見をいただきました。
・会長より、地域では災害のときに助け合いたい気持ちが大きく、共通項になるも

のは評価したいが、それが福祉かどうかとなると薄まる可能性があるとのご意見をいただきました。集まれるものは集まってやっていこうという考え方や、大変な課題から解決していこうという考え方もあり、今すぐ計画に反映できなくても、ご意見があったことが後々につながればと思うので、皆さま方の今までの経験や考えを、この会議においてもご発言いただきたいとのお願いがありました。

・会長より、活動主体者の調査結果の概要については、地域に貢献したい方々が積極的に回答していただき、必ずしも自分のやりたい活動ばかりではないが、地域のために頑張ってくださり、大変だろうと思うとの感想がありました。計画を立てることで地域活動が増え、担い手不足が加速しては、疲弊する人たちが交代していくだけで意味がないとのご意見をいただきました。地域福祉活動計画の中で、次世代に上手くバトンタッチした上で活動を続けていただく工夫を、江南市の実情に合わせて考えていただきたいとのお願いがありました。

・丹羽委員より、地域福祉懇談会の参加者の年齢構成について、参加した懇談会は高齢者ばかりだったが、若い方の意見も入っているのかとの質問がありました。事務局より、次の議題で回答するとのことでした。

３. 地域福祉懇談会開催結果について

・資料３に基づき、ジャパンインターナショナル総合研究所より説明がありました。

・会長より、説明を聞き、懇談会に来られた方は、気楽なことや身近なことなど、自由にご発言され、複数の意見が合わさっているものもあり、ストーリーを考えて刷新し、まとめていくことは大変だと思うとの感想がありました。これだけに、こだわる必要はないが、本来なら各地域の様々な活動の中でこのようなプロセスを行い、行政だけではなく、拠点になるところに住民の意見を集約し、地域ごとに特徴のある活動が展開できれば、地域福祉活動計画のイメージが湧きやすいのではないかとのご意見をいただきました。

・会長より、人がいるだけでは活動は生まれない、繋ぐ役割を担う方に集中しがちな負担を分散すると、地域活動がしやすくなるのではないかとのご意見をいただきました。

・永田委員より、地域福祉懇談会に参加したが、市役所に伝えたい、希望を実現させたいとの思いで参加されている方が多かったとのご意見をいただきました。この成果をどう出していくか、分かる範囲で教えていただきたいとの質問がありました。それを受けて、ジャパンインターナショナル総合研究所より、参加者にフィードバックしながら、市全体の計画書の中に、地区の方向性として結果をまとめていく予定であるとの回答がありました。江南市では地区社協が起ち上っておらず、区域の設定もこれからだが、地区で出た意見や打ち出された方向性を計画書に記載することで、今後の活動の基盤や、足がかりにしていきたいとの説明がありました。実現の可否を含めずにご意見を出していただいていると思うので、

フィードバックしながら進めたいとの説明がありました。

・会長より、色々な意見を聞けば聞くほど、まとめにくくなるが、このような機会に強い意見を出し、また継続して言っていくことが大事である、地域活動と併せて前向きなご発言をいただくことで、次のステップにつながるとのご意見をいただきました。

・会長より、子どもや若い世代、家から出にくい方など、地域福祉懇談会に参加できない人の意見を、委員の皆さまが代弁することも必要であり、自分の意見だけではなく、私の後ろにもたくさんいるということをおしゃっていただきたいとのお願いがありました。また、岩根委員より、懇談会に参加したが、参加者はやはり高齢の方が多く、子育て世代の方や若者の意見は入っていないと感じたとの感想がありました。計画を立てていく中で、市民意識調査から若い世代の意見を入れていただけるとありがたいとのご意見をいただきました。それを受けて、事務局より、すべての懇談会に出席したが、高齢の方の出席が多く、一生懸命イメージをしながらご議論をいただきありがたく思ったが、実際には若い世代の生の声が、地域福祉懇談会の結果に反映されていないように思うとの感想がありました。委員が言われたように、アンケートの中の若い世代の意見を膨らませてみるという工夫も、素案をつくるまでに時間があるので、考えていきたいとの回答でした。

・丹羽委員より、ＰＴＡや子ども会から懇談会に来てもらうのではなく、出かけていって聞き取りをすれば、生の声を拾いやすくなるのではないかとの提案がありました。それを受けて、事務局より、そのようなところで生の声を拾いたい、委員の方の中には、小学校の校長先生もいらっしゃるため、実際に子どもの声を聞くことも考えていきたいとの回答でした。また、ジャパンインターナショナル総合研究所より、アンケートの結果は数字として報告しているが、自由記述欄で若い方からのご意見をいただくことも多いので、そこから拾う方法もあるとの回答でした。

・会長より、子ども会の現状や課題はどうかという質問があり、それを受けて今井委員より、江南市子ども会連絡協議会に加盟している子ども会は、古知野東小学校区がほぼ 100％だが、例えば布袋小学校区、布袋中学校区、門弟山小学校や藤里小学校などは加入ゼロであるとの回答でした。ただ、イベントをするにしても市内では開催場所が限られ、距離があるところは引率が大変なので、参加が少ないとの報告がありました。子どもの意見、子育て世代の親の意見は色々な場面でアンケートを取れると思う、例えば我々がする大きなイベントには 800 人くらい集まるので、直接アンケートを渡して後で回収してはどうかとの提案がありました。そのような工夫をして、子育て世代の生の声を反映していただきたいとのご意見をいただきました。

・会長より、機会や聞くチャンスをつくることが必要であり、このような会議の場

で、ぜひご発言いただきたい、また、直接事務局に伝えいただいてもいいと思うとのご意見をいただきました。

４．その他

・事務局より

①来年度の会議日程について

５月末から６月頃に第１回を開催予定

年間４回を予定

策定状況により、回数は前後する可能性あり

終了